

執筆者紹介

翟学偉 Zhai Xuewei

南京大学社会学学院教授。社会学・社会心理学。「中国人的關係原理」「人情、面子與權力再生産」「中国人行動の邏輯」

羅家徳 Luo, Jar-Der

清華大学社会学系與公共管理学院合聘教授。ソーシャルネットワーク、關係研究、ビッグデータ、中国経営理論。「Exploring Small-World Network with an Elite-Clique: Bringing Embeddedness Theory into the Dynamic Evolution of a Venture Capital Network」(共著)「The Measurement of Guanxi Circle—Using Qualitative Study to Modify Quantitative Measurement」(共著)「把理論重新引入—大数理論論與預測模型的三角對話」

園田茂人 Sonoda Shigeto

一九六一年生まれ。東京大学東洋文化研究所教授。比較社会学、アジア研究。「中国人の

心理と行動』『不平等国家 中国』『日中關係史 1972-2012 Ⅲ 社会・文化』(編著)

楊宜音 Yang Yiyin

一九五五年生まれ。中国社会科学院社会学研究所研究員。社会心理学・文化心理学。「Guanxization or Categorization: Psychological Mechanisms Contribute to Formation of Chinese Concept of us」(個体與宏觀社会的心理聯繫—社会心態概念的界定)「日常生活の道德意義和生命意義—兼談中庸實踐思維概念的構念化」

李霞 Li Xia

商務印書館編集者。人類学。「娘家與婆家—華北農村婦女的生活空間和后台權力」(依附者還是構建者—關於婦女親屬關係的一項民族志研究)「從喪礼看婦女在親屬体系中的身份歸屬」

張筱平 Zhang Xiaoping

一九五一年生まれ。愛知大学地域政策学部元教授。中国語学。「關於中国人的称呼」「關於中国人的血縁關係交際」「關於中国人的業縁關係交際」

周星 Zhou Xing

一九五七年生まれ。愛知大学国際コミュニケーション学部教授。中国文化人類学・中国民俗学。「生熟有度—漢人社会及文化的一项結構主義人類学研究」「道在尿溺—当代中国的廁所革命」「百年衣裳—中式服装的譜系與漢服運動」

林萍萍 Lin Pingping

大阪商業大学JGSS研究センター・PD研究員。社会心理学、異文化比較。「面子の概念についての日中比較—日中大学生的調査をもとに」(「面子喪失に關する日中比較—日中大学生的質問紙調査を基に」)

上村威 Uemura Takeshi

一九七九年生まれ。明治大学法学部講師。中国外交、国際關係論。「文化と国家アイデンティティの構築—關係と中国外交」(「Understanding Chinese Foreign Relations」)「China-Japan Relations: Balance of Soft Powers」

井上 優 Inoue Masaru

一九六二年生まれ。麗澤大学外国語学部教授。現代日本語の文法・意味、文法・意味の対照研究。「相席で黙っていられるか―日中言語行動比較論」「方言の文法」「日本語文法のしくみ」

楊 曉捷 X. Jie Yang

一九五九年生まれ。カルガリー大学教授。日本中世文学、日本語教育。「鬼のいる光景―『長谷雄草紙』に見る中世」「デジタル人文学のすすめ」(共著)

松戸 武彦 Matsudo Takeliko

一九五二年生まれ。南山大学教授。産業・労働社会学。「変貌するアジアの社会心理」(編著)『地域研究入門(1)中国社会研究の理論と技法』(編著)「暗黙の保証―問題と金融規制強化から見る中国社会の特質」

柴田 哲雄 Shibata Tetsuo

一九六九年生まれ。愛知学院大学教養部准教授。中国近現代史、現代中国政治、日本近現

代史。「協力・抵抗・沈黙―汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較史的アプローチ」『中国民主化・民族運動の現在―海外諸団体の動向』汪兆銘と胡耀邦―民主化を求めた中国指導者の悲劇』

二好 章 Miyoshi Akira

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。中国近代史、中華人民共和国教育史。「アジアを見る眼―東亜同文書院の中国研究」(編著)『真宗大谷派淨圓寺所蔵藤井靜宣関連資料目録と解説』(監修)『中国21』Vol.48 特集・いまさら文革、いまなお文革、いまこそ文革(特集担当)

薛 鳴 Xue Ming

一九五七年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。日中比較言語学、社会言語学。「親族名称に見られる関係表示―日本語と中国語の比較から」『異文化とコミュニケーション 講座社会言語科学』(共著)

翻訳者紹介

宮田 千信 Miyata Chinobu

神戸市外国語大学卒。翻訳者。

飯田 直美 Iida Naomi

一九七三年生まれ。愛知大学国際問題研究所補助研究員。中国文学。「古史伝説における漢「苗」関係と近代中国における国族構築のプロセス」(翻訳)

戸谷 将義 Todani Masayoshi

一九七九年生まれ。愛知大学大学院中国研究科博士後期課程。中国語学・日中共通漢語の研究。「清末中国における複式簿記用語の形成―清末民初の中国会計学文献と会計学用語統一の動き」

学会通信

◎学会員活動（二〇一九年十月～二〇二〇年三月）

加治宏基

研究報告「旅遊能否發展日中友好？」（復旦大学日本研究中心）
「第二九回国際學術研討会」二〇一九年一月二四日）

金湛

「中国における農地流動化の推進と小規模農家経営への影響——湖南省双峰県の事例」（中国経済経営学会二〇一九年全国大会報告、二〇一九年一月）

「中国山間地域における労働力の流出と農業経営への影響——湖北省麻城市の事例」（ICCS国際中国学研究センター『ICCS現代中国学ジャーナル』第一二巻第二号、二〇一九年二月）

松岡正子

「ジャバ・チベット族の習慣法（一）——婚姻家族と家庭経済」（『愛知大学国際問題研究所紀要』第一五五号、二〇二〇年二月）

「四川アルス・チベット族におけるJoと移住伝承」（愛知大学国際問題研究所編『グローバルな視野とローカルの思考——個性とのバランスを考える』二〇二〇年三月）

「扎巴藏族の婚姻家庭の変化——母系制社会的習慣法（一）」（中央社会主義学院・中央民族大学社会学与社会科学学院主催「漢藏羌文化交流史研討会暨第四届多視角藏羌彝走廊研討会」於北京、二〇一九年二月二日）

中国21 Vol.53 予告（20年9月刊行予定）

特集●農民・農業・農村（仮題）

一九九〇年代末から、中国政府の最も重要な指令である「中央一号文件」のほとんどは農村問題の改善を最重要課題として掲げてきた。それにもかかわらず、低開発と貧困の代名詞である三農（農民・農業・農村）問題は絶対貧困から相対貧困へと姿を変えながらも依然、社会の不安をもたらす脅威として存在している。本特集は農民の貧困、農業の低生産性、農村の過疎を焦点に議論を展開する。

座談会「制度と市場の狭間を生きる農民工の過去、現在と未来」では、改革開放以後の経済制度の模索、社会主義市場経済の概念の確立とその後発展の中、制度と市場の激変に翻弄されながらも強く生きてきた農村労働者に視線を向ける。彼らは、かつて差別的に「盲流」と呼ばれ、未熟練労働者やインフォーマルセクターに集まる一群（民工）と位置付けられていた。しかし、現在、階層分化（起業家と労働者）を伴いながら、都市住民へと身分を変えつつある。彼らの未来について、時代的背景とその歴史を振り返りながら、中国農村研究の重鎮、中堅、若手の間で当研究領域の発展経路と今後の展望について論じる。

【座談会】厳善平×堀口正×原田忠直×金湛×川村潤子
【論説】厳善平、堀口正、原田忠直、寶劔久俊、馬欣
欣 西野真由、金湛ほか

編集後記——思えば清華大学で座談会を開くために北京に行ったのがちょうど今から一年前である。この企画のために初めて羅家徳先生とメールでやり取りし会場を用意していただいたばかりでなく、ポスターまで作ってくださり多数の研究者の参加に与った。お蔭様で「座談会」では収まらなくなり「講演会」形式に変更し予想以上の展開で一層手ごたえを感じるものとなった。南京からわざわざお越しくくださった翟学偉先生にも感謝したい。◇企画者は日本語教育という専門で留学生として一九八〇年代初頭に来日したが、研究や教育現場において言語研究はその言語が使用されている社会という文脈に置いて考察することの必要性を痛感した。一方、それは言語研究の分野ではすでに共通の認識であり、日本では二三年前に成立した社会言語科学会において、言語・コミュニケーションを人間・社会・文化との関わりでの説明を目指す学際的研究が盛んに行われている。こと中国人と日本人の言語行動を比較し分析するにあたり、社会学的なアプローチも取り入れるなか文献を読み進みに連れ、中国人の人間関係をめぐる研究をもっと広く紹介したいと考えるに至った。そして本誌で特集を組むことが実現し、かねてからの願いがかなえられたとも言える。寄稿してくださった執筆者の皆様をはじめ、すべての関係者に感謝したい。◇ときコロナウイルスが流行しているこの春、北京で講演会をした際にはまさか一年後の今日の状況になろうとは想像もしなかった。人民の自宅待機を余儀なくされている中国では、もともと人と人の物理的距離がぐっと近いとされていたものが二メートルも離れなければならぬという話を聴くと、この予期せぬ事態が人と人の距離にどのような影響を残すことになるだろうと独り考えているこの頃である。

(薛鳴)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度(400字詰原稿用紙換算) ③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail: china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の査読を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21編集委員会

〔編集長〕松岡正子 阿部宏志 梅田康子 木島史雄 金湛 薛鳴 三好章

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.52

特集 “^{ジャンシー}人際” の関係学

2020年3月25日発行

ISBN 978-4-497-22009-7 C3033

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	砂山幸雄
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861